

抑制カボチャの着果は訪花昆虫による自然受粉で可能

抑制カボチャでは、自然受粉でも人工受粉と同等な着果・結実が得られ、受粉作業の省力化が可能

背景・目的

- ・本県の抑制カボチャでは、人工受粉及び訪花昆虫による自然受粉が行われているが、人工受粉作業に労力が必要
- ・自然受粉での送粉効率の高い花粉媒介昆虫による着果状況と生産性に及ぼす影響を明確化

成果の内容

- ・抑制カボチャで、主要な花粉媒介昆虫は、ミツバチ、トラマルハナバチである(図1)
- ・自然受粉の着果率は83~100%と高い(表1)
- ・自然受粉区の果実は、収量・品質ともに人工受粉区と差はない(表2)

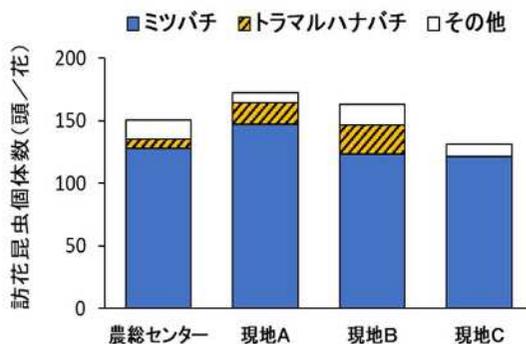


図1 抑制カボチャにおける訪花昆虫の種類
注) 調査時間帯: 午前6時~11時半

表1 自然受粉と人工受粉の着果率

	自然受粉	人工受粉
農総センター	100%	100%
現地A(金峰町)	91%	—
現地B(吹上町)	83%	—
現地C(吹上町)	87%	—

表2 自然受粉と人工受粉の収量・品質比較

	自然受粉	人工受粉
収穫個数(個/株)	1.3	1.4
1果重(kg/個)	2.80±0.49	2.65±0.50
収量(kg/10a)	1,860	1,820
乾物率(%)	21.9	22.8
Brix(%)	9.2	9.4
果肉色a*値	11.5	12.3

注) 果肉色a*値: 数値が高くなると、赤みが増す

期待される効果

- 受粉作業の省力化
25時間/10a → 0時間/10a

- 抑制カボチャ栽培面積の拡大



ミツバチ類



トラマルハナバチ

○ 普及対象・範囲 抑制カボチャ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部野菜研究室

(農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究)